

2024年度

運営に関する計画

最終評価

評価基準

- A : 目標を上回って達成した
- B : 目標どおりに達成した
- C : 取り組んだが目標を達成できなかった
- D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった



大阪市立三軒家西小学校
令和7年2月

1 学校運営の中期目標

【現状と課題】

理念 すべての子どもの学習する権利を保障する学校をつくるとして、「みんなが大切にされ、毎日笑える、笑顔のある学校」を目指している。

令和 6 年度の取り組みの成果からの現状と課題は以下のとおりである。

【安全・安心な教育の推進】

・校内アンケート「じぶんにはいいところがある」について、「そう思う」と最も肯定的に答えた児童は 30.1%「だいたいそう思う」と答えた児童は 60.1%でありその差が目立った。そのため、最も肯定的に答える児童の割合を増やすよう、自己肯定感を高める取り組みを考えていく必要がある。

・インターネットの危険性について理解はしているものの、実際に使う場合に児童間でトラブルになることがあった。そのため児童や保護者に対し、引き続きインターネットの正しい使い方を啓発していく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・研究が単発になってしまふことなく継続して取り組むことができる体制や内容を考えていく。

・学習内容に応じて、ノート、タブレット、ホワイトボード、フローチャートなどさまざまな方法を教師や児童が選択できるようにしていく。タブレットに関しては、学年で使用状況や内容の差がでないようにしていく。

高学年も興味・関心を持てるような取り組みを、体育委員会を中心に計画していく。

【学びを支える教育環境の充実】

・校内アンケートにおける「日々の学校生活や授業の中で学習者用端末を活用している。」において肯定的な回答は 92.2% であり、児童と教員の意識の差が大きいことが明らかになった。

・指標である「授業日において、児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数」については、学年当初の 1 学期の活用率を次年度は上げる必要がある。また、活用内容については学年によって差があり、教員の研修の必要性がある。

・チーム制の内容を吟味し、多くの教職員が納得できる体制を整え、その体制によって教職員の風通しを良くし、負担を軽減し、分散できるようにしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・令和 7 年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が市内平均を上回るようにする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 60% 以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60 % 以上にする。
- ・令和 7 年度の教員の時間外勤務時間で、1 か月の時間外が 45 時間を超える教員を 0 にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が市内平均を上回るようにする。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 50% 以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。
- ・教員の時間外勤務時間で、基準 1 以下を満たす教員を 85% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【年度目標】について

- ① 肯定的な回答した割合は3年生100%、4年生96.9%、5年生96.0%、6年生92.9%で平均96.5%の結果で目標を達成している。
- ② 計画通り実施することができた結果、校内調査のアンケート「スマホは気を付けて使わないと危ないことに巻き込まれたり友達を嫌な気持ちにさせたりしている」で肯定的に回答する児童が98%であった。3年生以上の結果を見ると、100%の児童が肯定的に答えていた。

【取組内容】について

- ① 「いじめについて考える日」を年2回設定し、それに合わせて各学年でもいじめに関する内容の道徳の授業を実施することができた。例えば、6年生では弁護士を招き、いじめについて考える機会を設け、5年生では、吉本興業から講師を招き、人を笑顔にすることの大切さを学ぶ機会を設けることができた。4年生と6年生では、「アンガーマネジメント」についての講師を招き、自分の感情と向き合い、人と自分を大切にすることを学ぶ機会を設けることができた。3年生では、地域の方を講師に招き、車いす体験を行い、体の不自由な方についての理解を深めることができた。2年生では、妊婦の方を講師に招き、命の大切について学習する機会を設けた。1年生では、三西幼稚園の園児を招き、自分たちの学習の様子を見せることで、園児の入学への期待を高めるとともに先輩として思いやりをもって後輩とかかわりたいという思いをもつきっかけを作ることができた。
- ② 外部から専門の講師を招き、全学年で出前授業を年1回行うことができた。5年生では、SNSの危険性や個人情報の取り扱い方について授業参観を活用して、保護者と共に考える機会を設けることができた。また、全学年の児童及び保護者に向けて、「インターネットの使い方ルール」の啓発を行うこともできた。1月の校内調査において、「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合が98%であり、指標を8%上回ることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【年度目標】について

- ① 小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が62%で市内平均65.2%を上回ることができなかった。
- ② 小学校学力経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で最も肯定的な回答をした児童の割合が60.2%であり目標を10.2%上回ることができた。
- ③ 小学校学力経年調査において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で最も肯定的な回答をした児童の割合が77.9%であり目標を2.9%上回ることができた。

【取組内容】について

- ① 校内調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が94.1%であり、指標を9.1%上回ることができた。「意見をつなぐ学び合い」を研究テーマに研究を進め、国語科のみならず他教科でも自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることを意識した授業づくりができている。しかし、友達の考えに対してどう考えるか、どうつながるかなど深めるところはまだ十分でない。

- ② 1月の校内調査において、「自分から進んで課題解決に取り組むことができている」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合が 94.7% であり、指標を 9.7% 上回ることができた。タブレットの活用率は上がり、児童が自ら練習問題などで使用する場面も増えた。他にもさまざまな学習形態を取り入れることで児童の学習への意欲は高まっている。漢字検定においても、自分で目標を定め、達成に向けて努力する姿が多く見られた。
- ③ 1月の校内調査において、「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きである」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が 94.1% であり、指標を 9.1% 上回ることができた。体育委員会を中心に、児童が意欲的に運動に取り組むことができる活動を計画・実行できた。ジャンピングウイークやドッジボールウイークなどの取り組みをした結果、自主的に休み時間に挑戦する児童も増えたし、低学年の児童が高学年と一緒に運動する楽しみを感じることもできた。

【学びを支える教育環境の充実】

【年度目標】について

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数は 43 日（12 月までのデータ）であり、年間授業日 143 日中の 30%（12 月までのデータ）であった。
指標の 50% は大きく下回っている。12 月の月間活用状況は 75% を記録しており、活用状況は改善されつつある。
- ② 目標に対して 5% 下回っている。しかし、基準 2 に関しては 100% で 1 か月 45 時間を超える時間外勤務を続けないように心がけている。また、チーム内では、協力して互いの負担を軽減し、分散することができているところもある。

【取組内容】について

- ① 活用内容としては、心の天気の入力や SKYMENU のノート機能による発表、Googleclassroom による課題提出、ナビマのデジタルドリルの使用、教科書・ドリルの QR コードを使用した資料の閲覧など、様々な活用がされた。
- ② 全体で考えると、このチーム体制で動くことが全員の軽減になるというところが難しい。できるだけ全員が納得できる体制の構築を考える必要がある。

大阪市立三軒家西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

（様式2）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。[結果：3年96.4% 4年87.5% 5年64.0% 6年89.3% 平均84.3%]</p> <p>・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%以上にする。</p> <p>[結果：6年22名中 はい19名、どちらかといえば3名 100%○]</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自分を大切にする心や他者への思いやりを育むために、「いじめについて考える日」を年2回設定するとともに、各種出前授業も全学年で行う。</p>	A
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>スマホやタブレット、SNSの危険性を理解し、安全に正しく利用するために、分かりやすく専門的な出前授業を全学年で1回行う。</p>	A
<p>指標</p> <p>校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <p>① 肯定的な回答した割合は3年生100%、4年生96.9%、5年生96.0%、6年生92.9%で平均96.5%の結果で目標を達成している。</p> <p>② 計画通り実施することができた結果、校内調査のアンケート「スマホは気を付けて使わないと危ないことに巻き込まれたり友達を嫌な気持ちにさせたりすることをしている」で肯定的に回答する児童が98%であった。3年生以上の結果を見ると、100%の児童が肯定的に答えていた。</p>
<p>【取組内容】について</p> <p>① Teamsを活用し、校長先生による「いじめについて考える日」を年2回設定し、それに合わせて各学年でもいじめに関する内容の道徳の授業を実施することができた。6年生では弁護士を招き、いじめについて考える機会を設けることができた。5年生では、吉本興業から講師を招き、人を笑顔にすることの大切さを学ぶ機会を設けることができた。4年生と6年生では、「アンガーマネジメント」についての講師を招き、自分の感情と向き合い、人と自分を大切にすることを学ぶ機会を設けることができた。3年</p>

生では、地域の方を講師に招き、車いす体験を行い、体の不自由な方についての理解を深めることができた。2年生では、妊婦の方を講師に招き、命の大切について学習する機会を設けた。1年生では、三西幼稚園の園児を招き、自分たちの学習の様子を見せることで、園児の入学への期待を高めるとともに先輩として思いやりをもって後輩とかかわりたいという思いをもつきっかけを作ることができた。

- ② 外部から専門の講師を招き、全学年で出前授業を年1回行うことができた。5年生では、SNSの危険性や個人情報の取り扱い方について授業参観を活用して、保護者と共に考える機会を設けることができた。また、全学年の児童及び保護者に向けて、「インターネットの使い方ルール」の啓発を行うこともできた。1月の校内調査において、「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合が98%であり、指標を8%上回ることができた。

次年度への改善点

- ① 校内アンケート「じぶんにはいいところがある」について、「そう思う」と最も肯定的に答えた児童は30.1%「だいたいそう思う」と答えた児童は60.1%でありその差が目立った。そのため、最も肯定的に答える児童の割合を増やせるよう、自己肯定感を高める取り組みを考えていく必要がある。
- ② インターネットの危険性について理解はしているものの、実際に使う場合に児童間でトラブルになることがあった。そのため児童や保護者に対し、引き続きインターネットの正しい使い方を啓発していく必要がある。

大阪市立三軒家西小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

（様式2）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>・小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が市内平均を上回るようにする。</p> <p>[結果：3年57.1% 4年63.8% 5年68.9% 6年70.9% 平均65.2%（市）] [結果：3年55.2% 4年49.2% 5年74.0% 6年69.4% 平均62.0%（本校）]</p> <p>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。</p> <p>[結果：3年60.7% 4年59.4% 5年60.0% 6年60.7% 平均60.2%○]</p> <p>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。 [結果：3年85.7% 4年78.1% 5年80.0% 6年67.9% 平均77.9%○]</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「意見をつなぐ学び合い」を研究テーマに、年6回の国語科の授業研究、講師を招いて年4回の研修を行い授業力を高め、思考・判断・表現の力が身につくような児童中心の授業を進めることができるようとする。</p>	B
<p>指標</p> <p>令和6年度の小学校学力経年調査や校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」との項目について、肯定的な回答の割合を全体の85%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学習課題の工夫や、一人一枚あるホワイトボードやタブレット等を活用を通して、個別最適な学習に取り組むことができるようとする。また、漢字検定に取り組み、自分の目標に向かって学習内容を計画してやり遂げる力をつけさせる。</p>	A
<p>指標</p> <p>令和6年度の校内調査における「自分から進んで課題解決に取り組むことができる」との項目について、肯定的な回答の割合を全体の85%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【5、健やかな体の育成】</p> <p>年間を通して、児童が意欲的に運動に取り組むことができるようにしていく。 (集会：心と体ほぐし運動、児童が積極的に体を動かしたいと思うような取り組みを考え、学期ごとに1週間から2週間、スポーツウィークを設定する。)</p>	A
<p>指標</p> <p>令和6年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである」との項目について、肯定的に回答する児童の割合を全体の85%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ① 小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が 62% で市内平均 65.2% を上回ることができなかつた。
- ② 小学校学力経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目で最も肯定的な回答をした児童の割合が 60.2% であり目標を 10.2% 上回ることができた。
- ③ 小学校学力経年調査において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で最も肯定的な回答をした児童の割合が 77.9% であり目標を 2.9% 上回ることができた。

【取組内容】について

- ① 校内調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が 94.1% であり、指標を 9.1% 上回ることができた。「意見をつなぐ学び合い」を研究テーマに研究を進め、国語科のみならず他教科でも自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることを意識した授業づくりができている。しかし、友達の考えに対してどう考えるか、どうつながるかなど深めるところはまだ十分でない。
- ② 1月の校内調査において、「自分から進んで課題解決に取り組むことができている」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合が 94.7% であり、指標を 9.7% 上回ることができた。タブレットの活用率は上がり、児童が自ら練習問題などで使用する場面も増えた。他にもさまざまな学習形態を取り入れることで児童の学習への意欲は高まっている。漢字検定においても、自分で目標を定め、達成に向けて努力する姿が多く見られた。
- ③ 1月の校内調査において、「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きである」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が 94.1% であり、指標を 9.1% 上回ることができた。体育委員会を中心に、児童が意欲的に運動に取り組むことができる活動を計画・実行できた。ジャンピングウイークやドッジボールウイークなどの取り組みをした結果、自主的に休み時間に挑戦する児童も増えたし、低学年の児童が高学年と一緒に運動する楽しみを感じることもできた。

次年度への改善点

- ① 研究が単発になってしまふことなく継続して取り組むことができる体制や内容を考えていく。
- ② 学習内容に応じて、ノート、タブレット、ホワイトボード、フローチャートなどさまざまな方法を教師や児童が選択できるようにしていく。タブレットに関しては、学年で使用状況や内容の差がないようにしていく。
- ③ 高学年も興味・関心を持てるような取り組みを、体育委員会中心に計画していく。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 [結果：143日中43日の達成 平均30.1%]</p> <p>・教員の時間外勤務時間で、基準1以下を満たす教員を85%以上にする。 [結果：基準1 80%、基準2 100%]</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>漢字の書き方などの学習や計算問題の練習などを自主学習で活用し、教科ごとの学習でも活用できる場面を多く設定する。（生活科や理科での観察や実験結果などの記録に活用したり、国語科や社会科などでのポスター作成で活用したりする。）</p>	B
<p>指標</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教職員同士で、風通しの良い関係を作り、一人一人の負担を軽減し分散できるようする。</p>	B
<p>指標</p> <p>令和6年度末の教員の時間外勤務時間で、基準1以下を満たす教員を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数は43日（12月までのデータ）であり、年間授業日143日中の30%（12月までのデータ）であった。</p> <p>指標の50%は大きく下回っている。12月の月間活用状況は75%を記録しており、活用状況は改善されつつある。</p> <p>② 目標に対して5%下回っている。しかし、基準2に関しては100%で1か月45時間を超える時間外勤務を続けないように心がけている。また、チーム内では、協力して互いの負担を軽減し、分散することができているところもある。</p>
<p>【取組内容】について</p> <p>① 活用内容としては、心の天気の入力やSKYMENUのノート機能による発表、Googleclassroomによる課題提出、ナビマのデジタルドリルの使用、教科書・ドリルのQRコードを使用した資料の閲覧など、様々な活用がされた。</p>

- ② 全体で考えると、このチーム体制で動くことが全員の軽減になるというところが難しい。できるだけ全員が納得できる体制の構築を考える必要がある。

次年度への改善点

- ① 校内アンケートにおける「日々の学校生活や授業の中で学習者用端末を活用している。」において肯定的な回答は 92.2% であり、児童と教員の意識の差が大きいことが明らかになった。

指標である「授業日において、児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数」については、4・5・6・8 月において 0% とかなり低く、1 学期の活用率を次年度は上げる必要がある。また、活用内容については学年によって差があり、教員の研修の必要性がある。

- ② チーム制の内容を吟味し、多くの教職員が納得できる体制を整え、その体制によって教職員の風通しを良くし、負担を軽減し、分散できるようにしていく。